



平成灯台守

2024. 4 月号

発行/御前埼灯台を守る会

5月3日に灯台150周年 記念式典と灯台まつり

御前埼灯台は5月1日に満150歳の誕生日を迎えます。御前崎市では、明治7年に点灯してから今日まで、御前崎沖を航行する船舶の安全を見守ってきた灯台に感謝し、これからも海も、御前崎市の未来をも照らしてくれることを願って、5月3日に「150周年記念式典」を開催します。

灯台を守る会では3日から5日まで恒例の灯台まつりを開催します。（裏面プログラム参照）

特に今年は灯台の歴史を語り継ぎ、50年後の催しにつながることを願って、幼稚園児による灯台お絵かき作品展示やくす玉割り、祝いもち投げ、江戸時代の灯りと現在の光を比較していただくため「灯明堂」の灯りを点します。

このほか、「民間の力で灯台を盛り上げよう会」による竹灯籠やマルシェ（出店）も加わり賑わいを創出します。

皆さん是非ともお越しくください。

直木賞作家が御前埼灯台を取材

島田市生まれの直木賞作家・永井沙耶子さんが1月25日、取材のため御前埼灯台を訪れました。



これは、現代文学を代表する小説家が各地の灯台を訪ね歩き、文化的、歴史的な価値を文学的に探究する灯台紀行エッセイの企画で、この日は清水海上保安部や御前埼灯台を守る会から灯台の構造や海域、歴史等の説明を聞きました。

御前埼灯台の感想を永井さんは、「ずっしりしていて安定感があり、かっこいい。ここ（御前崎）に光があるかないかで全然違うですね。この灯台の重要性を改めて知った。」と話していました。

作品は文藝春秋「オール讀物」6月号に掲載予定です。

御前崎小へ出前灯台講座

灯台を守る会では子ども達に御前埼灯台の歴史を知ってもらおうと、2月22日、御前崎小学校で出前灯台講座を行いました。



御前崎市では御前埼灯台150周年を記念して市内の小中学生を対象に「あかりの作文コンクール」の募集をしていますが、この日は、小学校からの要請で4年生の児童35人に灯台が作られた理由や出来事などの歴史について写真や資料をテレビに映して説明しました。

児童たちから、「なぜ御前崎に灯台ができたか分かった。」「外国（エジプト）の最初の灯台が火を燃していたのにはビックリした。」「灯台はなぜ白いのか?」「なんで外国の人が灯台を作ったのか?」「金床ほどのくらい大きさか?」「戦争で壊れたレンズは今もありますか?」などの感想や質問がありました。

by masatoshi